

来賀之御書面拝
見仕候、陳ハ非常の
御尽力ニより紛擾
問題も解決仕候由、
何よりの事ニ安堵
仕候、此ニ就き小生
弍千五百円の寄付
御取計被下候由臨機
適當の御処置として、
小生も大ニ欣喜し
仕候、小生として生れ落ちて
生長したる故郷の
稀有の大紛擾ニ
際し、既ニ傍観す
るの心苦しきものも有之
候事ニ付き、此節の
寄付か何分か解決の
助けとなりしと聞かは
何よりの満足ニ

御座候、尚一層
御尽力被成度候、
過勞の為め病氣
ニ影響せずやと
心配仕居候、何卒
御多忙中ニも精神
の安静を御修養
被成度候、
先以て円満解決ハ
双手を挙げて賛成
仕候、寄付金ハ兩三申
内ニ御送付可致候、
乍併此手紙着次第名古屋
製糸野々垣へ御話し
被下製糸場より
右金員御査収
被下度願上候、野々垣
より奥帳場卜当方
よりへ通牒可致

事ニ御話し被遂、
先ハ不取敢御祝
旁御請迄申入候、

早々、

十九日 原

青木武雄殿